

低温に対する園芸作物技術対策

平成30年1月23日
塩谷南那須農業振興事務所

1月23日6時発表の宇都宮地方気象台週間予報によると、栃木県内の向こう一週間は最高気温、最低気温ともに平年より低い日が多いと予想されています。1月18日発表の関東甲信地方1か月予報(1月20日から2月19日までの天候見通し)でも向こう1か月間の平均気温は低い確率が60%となっています。

園芸作物の温度管理、凍害防止等について、万全の対策をお願いします。

【1月18日気象庁発表 関東甲信地方1か月予報】

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は低い確率が60%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率%

[気 温] 低 い：60% 平年並：30% 高 い：10%

[降 水 量] 少 ない：30% 平年並：40% 多 い：30%

[日 照 時 間] 少 ない：30% 平年並：40% 多 い：30%

【園芸作物技術対策】

1 施設全般

- (1) ハウス回りの除雪及び排水を行い、冷気の流入及び融雪水(冷水)のハウス内への浸透を防止する。
- (2) ウォーターカーテン利用の施設では、最大限水量を確保し保温に努める。
- (3) 暖房機利用の施設では、設定温度を通常よりも高めに設定し、夜温を確保する。
- (4) 無加温施設では、べた掛け、トンネル等を設置し、被覆資材や被覆枚数を工夫し保温に努める。また、水封マルチによる蓄熱を活用する。
- (5) 上記対策により温度確保が難しい場合は、補助熱源(CO₂発生機、ストーブ、ヒーター、ろうそく等)を活用し温度低下を最小にする(火災等には十分注意する)。
- (6) 水道管、かん水装置、防除器具、各種農機具の凍結、破損に注意する。

2 いちご

- (1) 日中の気温上昇具合により換気を行う。換気した場合でも夕方は早めにサイドや内張を閉めて、ハウス内温度が3℃以下にならないよう保温に努める。
- (2) 曇雨天が続く場合は、灰色かび病の発生に注意し予防散布を行う。
- (3) 日中、ハウスが密閉になる場合、炭酸ガスの施用を行う。
- (4) 親株が極端な低温に当たらないよう保温資材を活用し、トンネルやべた掛け等を行う。

3 野菜(トマト、なす、きゅうり等)

- (1) パイプハウスや小トンネル内に定植、播種したものは、日中の気温上昇具合により換気を行う。換気した場合でも夕方は早めに密封し、べた掛け資材等で保温する。
- (2) 地温の極端な低下を避けるために、かん水は控えめに行う。追肥も控える。
- (3) 露地栽培の定植や播種を向かえたものは、作業を遅らせ、マルチを張って地温を高め、暖かくなってから定植や播種を行う。
- (4) 加温栽培では、暖房機や外張りやカーテン資材の再点検、整備を徹底する。

4 果 樹

- (1) 苗木、若木の凍害防止に努める。特に、核果類、キウイ、ぶどう、かき、くりの苗木は凍害に弱いので、わらや断熱資材の巻き付けを行う。

5 花 き

- (1) 加温栽培では、暖房機や外張りやカーテン資材の再点検、整備を徹底する。
- (2) 半促成栽培のりんどうは、施設内のトンネルやべた掛け等で被覆して保温に努める。